

千葉大学医学部附属病院で肺切除術を受けられた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年9月4日

呼吸器外科

呼吸器外科では、肺がどのくらい気腫性変化を起こしているのかを表す指標として、CT画像から算出できる low attenuation volume と、肺切除後の在宅酸素療法導入の関連性に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2016年1月1日～2020年12月31日の間に肺葉切除術もしくは
区域切除術を受けられた方

1. 研究課題名

「Low attenuation volume と肺切除後の在宅酸素療法導入の関連性の検討」

2. 研究期間

2025年承認日～2026年12月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

肺の機能が悪い方で肺切除を受けた患者さんの中には、在宅酸素療法（通称 HOT）が必要となる方がいます。しかし、現時点ではどのような患者さんに術後在宅酸素が必要路となるかは分かっていません。

肺がどのくらい気腫性変化を起こしているのかを表す指標として、CT 画像から算出できる low attenuation volume というものがあります。この数値が高いほど、肺が気腫性変化を起こしていることがわかります。

今回の研究では、千葉大学呼吸器外科で手術を受けられた患者さんで、low attenuation volume と術後の在宅酸素療法との関係性があるかどうかを調べます。この研究成果によって、どのような患者さんで術後在宅酸素が必要となるかが術前の検査か

ら予測することができると考えられます。

4. 研究に用いる情報の種類

該当症例において、診療録に記載されている治療成績、早期合併症、遅発性合併症、画像情報、採血項目、呼吸機能検査情報、病理所見に関する解析を行います。新たに採取する試料はありません。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：呼吸器外科 教授 鈴木 秀海

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院呼吸器外科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

（URL：<http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>）

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻 1－8－1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

呼吸器外科 医員 苅田 涼

043（222）7171 内線 5464